

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2025 年 1 月 18 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 地域デザイン科学研究科 1 年

申請者名

(学会発表助成の場合は参加者名)

横尾亜美

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>学会発表助成 学術出版助成・学術論文発表助成</p>
<p>研究活動名</p>	<p>2025 年度絵本学会研究会 (於：大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学相川キャンパス)</p>
<p>成果の概要</p>	<p>12 月 20 日に「長新太『キャベツくん』論―〈たべること〉に着目して―」という題目で発表を行った。絵本作家・長新太の代表作である『キャベツくん』・「キャベツくん」シリーズの読解を通し、従来議題とされてきた長新太絵本の「ナンセンス」性の捉え直しを試みた。代表作である『キャベツくん』・「キャベツくん」シリーズの考察を通して明らかになったのは、単なる摂食行為に留まらない「食べる」展開である。独特の「食べる」展開は『キャベツくん』のみならず長新太絵本で初期から晩期に至るまで確認でき、さらにはエッセイでも散見される。そのため「食べる」展開が長新太絵本の「ナンセンス」性に関わる重要な要素になっているのではないかと主張した。</p> <p>課題として挙げられるのは、他の絵本と長新太絵本の「食べる」展開の違いを明確にすることである。「食べる」ことや「食べもの」は長新太絵本に限らず、子どもの本においてこれまでもよく描かれてきた。「食べる」展開自体は珍しいものではないため、絵本史における「食べる」絵本を整理した上で、長新太絵本の「食べる」展開がいかに独自性を有するかを論証する必要がある。また、これまでの先行研究では、長新太絵本の「ナンセンス」性は美術の見地からシュルレアリスムの文脈で解釈されてきた。従来重視されてきた観点に対して「食べる」展開がいかに関わっていくのか、『キャベツくん』作品研究だけでなく長新太論までを把握し、自身の研究の位置づけを示すことが求められる。</p> <p>質疑応答の時間では、文学・心理学・美術と幅広い分野から質問をいただいた。『キャベツくん』という作品、ひいては絵本というメディアそのものが一様の観点からだけでは評価し切れない総合芸術であることを実感する機会となった。</p>